

～ 北見赤十字病院の様々な取組について ～

<北見赤十字病院中長期運営方針>

1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。
3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います。
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます。
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます。
6. 地域に開かれた病院を目指します。

項目	平成30年度の取組み
1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します	
1) 患者本位の医療	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんに副用いただくお薬についての説明体制を強化。月平均実績件数930件(昨年度729件) 救急病棟に病棟専属の薬剤師を配置。 H30.10月 将来の意思決定能力の低下に備えて、患者さん、家族等と医療者が、今後の治療・療養の意向・代理意思決定者等について話し合う体制を構築し運用開始。
2) 侵襲の少ない医療	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡手術支援用ロボット(ダヴィンチ)を導入。R元年度より稼働開始。 整形外科にて新たな診療用機器(ナビゲーションシステム)を導入。 患者さんの負担が少ない、内視鏡等を使用した手術等を積極的に実施。 内視鏡手術(消化器) 1,007件 <ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡手術 604件 胸腔鏡手術 150件 内視鏡手術(泌尿器) 296件 関節鏡下手術 36件 カテーテル治療(心臓) 259件 カテーテル治療(脳) 33件 放射線治療(IMRT) 88件 放射線治療(SMART) 26件
3) 質の高いチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> 当院退院患者さんの標準化死亡比0.4985(全国平均を1とする)であり、死亡率が低い病院といえる(H29年度)。 入院患者さんが持参されたお薬について、病棟での確認を開始。 認知症サポーター養成講座開催。 H30.10月抗菌薬適正使用支援チームの運用開始。 H30.12月脳外科放射線科検査治療(CT)の運用開始。 入退院業務検討委員会を設置し、患者さんの入退院業務について様々な角度から検討を開始。 院内救急対応システムの検討開始。
4) 第三者機関による機能評価受審	<ul style="list-style-type: none"> H30.4月 臨床検査ISO15189認定。国際規格に基づいた検査の実施能力について認められた。 H30.11月 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A制度)認証施設認定。安全な輸血が行われていることが認められた。 放射線医療被ばく低減施設認定の受診準備開始。医療被ばくを適正に管理するための認定。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。	
1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・心不全・糖尿病・精神疾患・呼吸器疾患・整形外科疾患・緩和医療・歯科診療の充実	<ul style="list-style-type: none"> 新規抗がん剤について、医師・薬剤師が中心となり、多職種が連携して適切に使用できる体制となっている。 H30.8 ハートチームを立ち上げた。道立病院と共同での心臓手術実施の申請・承認を将来的に得ることを目的とする。 道立病院と連携し、医師派遣により呼吸器疾患患者さんに対応。 歯科口腔外科の周術期における口腔管理の推進。 画像を遠隔送信できるシステムを用いた脳疾患患者等との画像連携の仕組みを構築し、管内で運用開始。 がん患者さんの就労復帰支援体制を構築。(H30年度実績 0件)
2) 救急医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・精神保健対策(認知症)の充実	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送を積極的に受け入れ、管外の医療過疎地域の患者さんにも受け入れている。(救急車受入:3,555件) 認知症やせん妄を発症している、またはリスクの高い患者さんに対し、一部病棟にて院内ケアを試行。令和元年度より、病棟を拡大し本稼働させる。 行政の認知症初期集中支援チームに美幌町も追加となり、1市4町での支援となる。 ヘリポート利用件数 当院へ搬送・・・4件 当院より搬送・・・14件 合計18件
3) 救命救急センターの安定維持	<ul style="list-style-type: none"> 救命救急センター評価基準充実段階A評価を維持している。 救急病棟と救急外来の一体的運営を実施。
4) リハビリテーション・健診体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度実績 リハビリテーション 98,013単位(1単位20分) 健診 10,289件 H30.10 道立病院にて心臓に疾患のある患者さんのためのリハビリ開始。
5) 救急ワークステーション(北見地区消防組合研修施設)との連携	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士と連絡を密にし、実習を積極的に受け入れている。(気管挿管講習等 計72名) 消防署職員を講師とした職員対象の勉強会を開催。救急ワークステーションの役割について理解を深めた。 Drカー稼働件数 18件
6) 地域完結型医療の推進・地域の医療施設や介護施設との連携推進	<ul style="list-style-type: none"> 血液疾患患者の増加を受け、無菌室増床を決定。令和元年度に工事実施。 ファーストパス(地域連携予約) 件数 10,890件 認知症・緩和ケア・介護等にかかる研修会への講師派遣(20件) 地域医療機関等への医師等派遣 頭頸部・耳鼻咽喉科 118回 脳神経外科 12回 呼吸器内科(道立) 48回 内科 6回 リハビリテーション科 8回 診療放射線科35回 当院職員及びオホーツク管内医療機関及び福祉施設職員対象に各種研修会を開催。 H30.9 心不全患者に関わる多職種連携研修会(院内21名、院外104名参加) H30.11がん化学療法勉強会(院内64名 院外8名) H30.6 H31.2月に認知症症例検討会開催(累計 院内16名 院外139名) がん看護研修会を7回開催(累計 院内211名 院外55名) ハイリスク妊婦ケアのため、北見市保健師及び当院産婦人科医師、看護師長、神経精神科医師、ソーシャルワーカー等による多職種連携を2か月に1回実施。
7) 地域への医療サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり医療スタッフを派遣。 サロマ湖100kmウルトラマラソン(7名) オホーツクサイクリング(2名) 北見ぼんちまつり(2名) 北海道マラソン(5名) 網走マラソン(8名)
3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います	
1) 災害医療への平時からの準備	<ul style="list-style-type: none"> H30.8月 DMAT隊員の大規模地震時医療活動訓練参加(香川県 10名) H30.8月 統括機能維持・ロジスティックスDMAT技能維持研修参加(札幌市 5名) H30.11月 院内災害対応訓練の実施及び災害対策マニュアル改訂。 H30.12月 DMAT技能維持研修参加(4名) H30.12月 こころのケア研修会実施(15名) 地域の災害救護訓練参加(北見(8名)・紋別(6名)) EMIS研修参加(5名) 災害派遣医療チーム北海道胆振東部地震検証会(6名) 資機材点検実施(年2回) ※DMAT・・・災害発生時の急性期に活動する災害派遣医療チーム ※ロジスティックス・・・災害時に情報収集、連絡調整、物資調達等にあたる職員
2) DMAT・救護班の出動及び国際活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> H30.9月 胆振東部地震への救護班、DMAT派遣 医療コーディネーターチーム2班(5名)、救護班4班(24名) こころのケアチーム4班(8名)、支部現地災害対応本部要員(1名) DMAT派遣(6名)、ロジスティックス派遣(8名)
3) オホーツク圏域災害拠点病院(広域紋別・網走厚生・遠軽厚生・北見赤十字)の相互支援	<ul style="list-style-type: none"> 4病院協定に基づきH30.5月に当院にて実働訓練を実施。

項目	平成30年度の取組み												
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます													
1) 職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> H30.4 きたみワーク・ライフ・バランス認定事業所に認定。仕事と生活の調和がとれた職場と認められた。 産業医を採用。職員の健康管理等を効果的に行う体制を構築。 												
2) 職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> H30.11月 係長以上の様々な職種の職員が集まる「階層別研修」を実施。 院外研修等への参加 研修等参加・・・延855人 学会発表・・・延133人 												
3) 臨床研修医、専攻医等の確保	<ul style="list-style-type: none"> 合計10名の研修医を採用。 昭和大学、日赤医療センターより、1ヶ月単位での臨床研修医受入(昭和11名、医療センター8名) 薬剤師1名採用。 薬学部学生への奨学金貸付実施(1名) 看護学生への奨学金貸与実施(88名) 卒後臨床研修評価機構の審査受審準備を開始 												
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます													
1) 健全経営の維持	<ul style="list-style-type: none"> H30年度は黒字決算となった。入院患者さん、外来で抗がん剤治療を行う患者さんの増加や診療単価が増加したことが要因。 光熱水費等の費用削減にも努めている。 												
2) ICT(情報通信技術)活用の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 脳卒中にかかるとオホーツク管内の医療機関との画像連携について、一部医療機関と連携開始。 												
3) 医療安全、感染管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルの見直し実施。 報告すべき感染症発生時には遅滞なく行政に報告している。 日常的な感染症発生状況の監視等の感染管理業務遂行のために、感染管理システム導入への検討を開始。 医療安全、感染症にかかわる研修会、勉強会開催及び職員参加実績 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>医療安全関係</td> <td>22回</td> <td>延2,661人</td> </tr> <tr> <td>感染管理関係</td> <td>9回</td> <td>延2,371人</td> </tr> </table> 	医療安全関係	22回	延2,661人	感染管理関係	9回	延2,371人						
医療安全関係	22回	延2,661人											
感染管理関係	9回	延2,371人											
5) 北海道立北見病院との一体的な医療提供体制構築	<ul style="list-style-type: none"> H30.4より道立病院の経営を受託。 毎月1回、指定管理委員会及び部会(看護、医療専門職(医師・看護師除く)、医事・事務)を開催。 日赤より職員派遣を実施し、業務移管や新たな業務を開始。また職員の交流を進め、相互に連携して業務を行う体制作りを努めた。 理学療法士2名を派遣し、H30年10月より心臓機能回復のためのリハビリを開始。 道立病院の医療器具等の洗浄、滅菌業務を日赤病院に移管。 日赤病院、道立病院で物品管理業務の統一を図った。 医師事務作業補助者等を配置、医師、看護師の業務低減を図った。 認定看護師や認知症、褥瘡チーム等によるサポートを実施。 透析実施にかかわる連携体制を構築し、日赤入院患者の透析を道立病院で行う運用を開始。 両病院の物品や契約の統一・見直しを図り、経費削減に努めた。 相互診療応援実績 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>日赤→道立</td> <td>49件</td> <td>道立→日赤</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>相互転院実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日赤→道立</td> <td>17件</td> <td>道立→日赤</td> <td>5件</td> </tr> </table> 外来紹介件数 520件 外来逆紹介件数 395件 	日赤→道立	49件	道立→日赤	2件	相互転院実績				日赤→道立	17件	道立→日赤	5件
日赤→道立	49件	道立→日赤	2件										
相互転院実績													
日赤→道立	17件	道立→日赤	5件										
6. 地域に開かれた病院を目指します													
1) 市民公開講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○H30年度実施実績 市民公開講座 「脳と心臓の治療の最前線 ～血管内カテーテル治療を中心に～」道立北見病院共同開催(参加者 42名) 「認知症の方への関わり」～医療・介護・福祉の立場から～(参加者 173名) 「ストレスを知り、うまく付き合おう」(参加者 53名) 「“がん”について考える【もっと知って欲しい“緩和ケア”】」(参加者135名) 												
2) パンフレット・ICT(情報通信技術)・マスコミによる地域住民への医療情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをリニューアル。 報道機関を通じ、赤十字フェスタ、フィリピンへの看護師派遣を地域住民へ周知。 ホームページ及び院内掲示により、中長期運営方針に基づく当院の取組を公表。 新規導入した医療機器について報道機関協力による地域への情報提供、PRを実施。 タウン誌への連載記事掲載(道立病院)。 												
3) 行政等による協議会への積極参加	<ul style="list-style-type: none"> 以下の会議等へ参加し、行政等との連携を図っている。 北網圏域地域医療構想調整会議 北網圏域地域医療構想調整会議医療専門部会 北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会北見地域多職種連携チーム会議 北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 北網地域リハビリテーション推進会議 北見地域医療供給体制検討会 北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム エコチル調査北海道ユニット北見地区運営協議会 北見市特別支援教育連携協議会 感染症診療協議会 感染症協議会結核部会 北見市献血協議会 北見市子ども総合支援センター「きらり」発達障害通所児童診察相談業務及びケース会議 北見市医療福祉情報連絡協議会 認知症疾患医療連携協議会 北見保健所管内自殺対策連絡協議会自殺未遂地域支援部会 北海道ブロック都道府県エイズ治療拠点病院等連絡会議 北海道HIV/AIDS医療者研修会並びに各種連絡協議会 公益財団法人北海道移植医療推進財団主催各種会議 北海道がん診療連携協議会 												
4) 救急法等の啓発・普及	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕団(ボランティア)と連携して講習を開催。(H30年度実績) 救急法(応急手当の知識・技術) 15回 健康生活支援講習(高齢期に必要な健康増進の知識等) 8回 幼児安全法講習(乳幼児の事故予防や手当) 14回 赤十字フェスタの際に救急法体験コーナーを設置。 												